

序

2010年にレジデントノート増刊「診断に直結する 検査の選び方、活かし方～無意味な検査をなくし、的確に患者の状態を見抜く！」を上梓しました。

嬉しいことに、日々の臨床のなかで検査をどう使いこなしていくかの悩みをもつ臨床医のお役に立てたようで、好評を得て増刷を重ねましたが、5年が経過して現在の診療に追いついていない内容や不足している内容などが出てきています。

そこで、あえて体系的、網羅的に検査を概観するのではなく、いかにして診療に本当に役立つ検査を行い、適切に解釈・判断して診療を進めていくか、「診療に直結する」疑問点を集めた構成にするという当初の基本コンセプトはそのままに、現在の臨床に即するように各執筆者に内容をアップデートしていただきました。そして、より充実したものにするために新規の項目も加えました。執筆者は、いずれも臨床の現場で活躍されている臨床に造詣の深い先生方にお願いしています。

第1章「検査の基本的考え方」では、検査の目的とそれに応じた運用の考え方を、第2章「内科医に必要な検査の基本的読み方」では、臨床医として知っておくべき基本的な検査の解釈のしかたとその検査で何がわかるか/わからないかを、第3章「検査のここが知りたい」では、診断の全体的な流れのなかで検査をどう使うかという視点を中心に、臨床の現場でのピットフォールを、第4章「Advanced Lecture：トピックスとなっている検査」では、最近のトピックスとなっている検査をとりあげています。どの項目も、日常臨床でよく遭遇する疑問、悩みに答える内容になっています。

初版と同様に本書が、悩める臨床医の診療の助けになれば執筆者一同の幸いです。

2016年6月

執筆者を代表して
名古屋第二赤十字病院 総合内科
野口善令